

コミュニケーション能力の育成

不登校生徒の状況

対象生徒は、小学校3年生から登校しぶりが始まり、小学校5年生から不登校となった。他者とのコミュニケーションが苦手と感じており自閉傾向がみられ、こだわりが強く対人関係の構築が困難である。部屋に引きこもり、家族以外の人との交流が難しいため、コミュニケーション能力を身に付けることを重点とした支援をしている。

具体的な取組

○支援に向けた情報共有

週1回の特別支援教育校内委員会のほか、当該生徒に関わる担任やSC、SSW、支援員との日常の情報交換を通して、当該生徒と保護者に対する多角的な視点からのアプローチを進めた。



○言葉のキャッチボール

自分の意思を表現したり、相手の気持ちを理解したりする力を育てるため、将棋の諸場面を通じた交流を設けた。

一つ一つの場面について、相互に質問・回答していくことで、論理的で連続的な会話が徐々にできるようになってきた。

○学習支援（学び直し）

当該生徒は、「両親の出身地やその土地の料理(各地の特産)」について興味を示した。そこで校内別室で「都道府県かるた」を不登校対応巡回教員と共に、ヒントを出しながら取り組むと、47都道府県のピースの形と位置を把握できるようになった。現在は県名・県庁所在地を漢字で書けるよう学習を進めた。

○交流を目的としたグループ活動

支援員や他の利用生徒と関わりをもてるようにする取組（カードゲームなど）を意図的に設定し、自分の気持ちを表現できるよう促した。交流活動の中では、相手の言動を受け入れたり、自分の思いを声に出してみたりする場面がみられるようになった。



成果

昨年までの登校できなかった状態から、保護者に送迎してもらいながらも登校できるようになった。現在、校内別室が、当該生徒にとっての「居場所」としての機能を果たしている。少人数での交流を通して、他者との関わりがもてるようになった。

課題

当該生徒が自力で登校するために、引き続き保護者と協力して支援を続けていく。友人関係の構築を図り、登校意欲につなげていく。